ふしぎなフーセンガム

ぼくはぼく

1年　C・Mさん

もし、ぼくがふしぎなフーセンガムを食べるならなににになろう……。

このおはなしの主人公のじゅんくんはゆびあみや本をよむことがすきな男の子。じゅんくんはふしぎなフーセンガムを食べて、女の子にへんしんします。やまんばみことあそんで、いろいろなことに気がつきました。

ぼくがこのおはなしから学んだことは二つあります。

一つ目は、「だれにでもやさしいところがある」ということです。ふだんのやまんばみこは、人をたたいたり、じゅんくんから四つばのクローバーをとったりします。だけど、みことあそんでみると、いろいろなことをおしえてくれて、さらにクローバーもくれました。勇気を出して、にがてな子ともあそんでみると、いいところがたくさんみつかるかもしれません。チャンスをのがさないことがたいせつです。

二つ目は、「ぼくはぼくなんだ」ということです。じゅんくんがそのことに気がつけてよかったとおもいました。ぼくにも思い当たることがあるからです。ぼくは0さいのころからぬいぐるみがすきです。たくさんぬいぐるみをもっていて、どこにいくにもぬいぐるみといっしょでした。でも、さいきんはぬいぐるみをもって外へ出ることがはずかしくなりました。「かっこいいおにいさんでいたい」という気もちが「ぼくはぼく」でいられなくさせます。それでもぼくは、いえの中ではぬいぐるみをいつもだいています。がっこうやいえのそとでいつでも「ぼくはぼく」でいることはむずかしいけれど、いえでは自分らしくいられます。だから、じゅんくんもいえでは自分らしくすごしてほしいとおもいました。

さいごに、もしぼくが、ふしぎなフーセンガムをたべるなら、ハリモグラになりたいです。ハリモグラになって土の中でおたからさがしをしてみたいです。ぼくのところにもりすが来てくれないかな。